74 新破天荒

令和四年度版
創刊
第8号

体育大会結果詳細について

保護者の皆様へ

新破天荒第七号の最終頁で、九月二十七日に実施された体育大会の様子を少しだけ紹介しましたが、本号で各種目等で活躍した生徒の紹介や、本校ホームページ上に掲載する第八号分で当日の写真をいくつか紹介します。本誌面では、白黒写真にもならないので、よろしければ姫路南高等学校ホームページのトップページにリンクされている新破天荒第八号をご覧ください。

すでにお気付きの方もおられると思いますが、学年通信各号は月初めに本校ホームページトップページにリンクを貼ってもらっており、特に紙面で写真や表として載せているものについては、カラーであったり、拡大したりと多少は見やすくなっております。

そちらの方も、是非ともご覧いただければと思います。

一年生活躍の跡

男子五〇m　決勝
第一位　鬼塚　陽太(四組)
第七位　内上　航(二組)

女子五〇m　決勝
第一位　森脇　遙(三組)
第六位　中谷　瑞稀(二組)

男子一〇〇m　決勝
第三位　森中　博孝(四組)

女子一〇〇m　決勝
第一位　黒瀬　遥香(四組)
第三位　日阪　美咲(二組)
第五位　笹山　陽朱(五組)
第七位　波多野　虹(一組)

女子一〇〇mハードルくぐり　決勝
第一位　平山　風花(一組)
第三位　牧本　紋佳(四組)
第七位　利根川実咲(三組)
第八位　上田　里歩(一組)

男子走幅跳　決勝
第四位　佐野木圭吾(二組)
第五位　藤岡　湊大(一組)
第六位　福永　陸斗(四組)
第七位　鎌田　遊(三組)
第八位　吉田　裕亮(五組)

女子走幅跳　決勝
第一位　富井　心美(二組)
第二位　中村　莉子(五組)
第四位　平山　風花(一組)
第五位　村上　里緒(四組)

男子ジャベリックスロー　決勝
第一位　田中　琢人(四組)
第三位　小笠原煌大(三組)
第七位　瀬崎　聖護(一組)

女子ジャベリックスロー　決勝
第五位　梶原つかさ(四組)
第六位　小林　喜咲(一組)
第七位　田中　葵(二組)

男子四×一〇〇mリレー　決勝
第一位　一年四組
第二位　一年一組
第五位　一年三組

女子四×一〇〇mリレー　決勝
第一位　一年五組
第五位　一年三組

男子四×二〇〇mリレー　決勝
第二位　一年三組
第八位　一年五組

女子八×五〇mリレー　決勝
第一位　一年五組
第三位　一年二組
第四位　一年三組
第六位　一年一組

生徒会レク種目　決勝
第三位　一年四組

クラス総合順位

第一位　一年四組
第二位　一年五組
第三位　一年三組

各クラスで存在感を示し、頑張ってくれました。怪我もなく、雨をも吹き飛ばし楽しんでもらえたと思います。

十一月の予定

二　日（水）　第二回全国実力模試
三　日（木）　文化の日（祝日）
四　日（金）　シェイクアウト訓練
八　日（火）　教育相談
一四日（月）　芸術鑑賞会　アクリエ姫路にて
二十三日（水）　勤労感謝の日（祝日）
二十四日（木）　学部ガイダンス
一、二年

十二月

一日（木）～七日（水）　二学期期末考査
八　日（木）～　短縮授業（三，四，五，六限）
十二日（月）　薬物乱用防止講演会
十三日（火）　教育相談
二十日（火）　教育相談
二十一日（水）　クリーンアップ作戦
二十二日（木）　大掃除・ワックス掛け
二十三日（金）　終業式
二十八日（水）　仕事納め

漲る力　活躍を信じて

弓道部

女子個人　県大会出場

私は、全国選抜兵庫県大会西播地区予選に出場しました。十二射中五中で兵庫県弓道選抜大会に出場することになりました。部活動では五中することがなく、今回の予選での五中は「まぐれ」だと思っています。

しかし、県大会に出場することが決まった以上は、普段受けている指導の言葉である「的に当てるという気持ちよりも、射型などを基本に忠実に行うことが大事」ということを心に留めながら、しっかりと動きを大切にすることを意識して、一射一射を大事に取り組んでいきたいです。

また、なかなか当たらないからといって、集中力が途切れることがないように頑張ります。

これから県大会までの日々の練習で、不動心と平常心を養い、

「弓道八節」

を大事にして、練習に励みたいです。

県大会に出場して思った成績が残せなくても、自分に何が足りなかったかを会得して、具体的な改善点を見出して今後の練習に生かせるよう、県大会を通じて学びたいと思っています。

（1組　橋口　煌）

陸上競技部

後期西播大会女子最優秀選手

私は後期西播大会の七種競技で、大会新記録ならびに学校最高記録を樹立しました。しかし、ここに至るまでには県新人大会に向かう準備の中で，足の故障をしてしまうなど、良いことばかりではありませんでした。故障が悪化して、中学校からの目標であった近畿大会出場を叶えることができず、とても悔しかったです。

私はもっと練習したかったのですが、故障のこともあり、思うような練習ができない分自分の体と相談しながら、練習するようになりました。

そのおかげで故障も癒え、万全の状態で臨んだ本大会は、最初の種目の一〇〇ｍハードルから調子が良く、自己新記録が出ました。そのままの流れで七種目を終えることができました。結果は、学校最高記録の大会記録で優勝することができました。他に出場した二種目でも入賞することができて学校得点を得ることができてチームにも貢献することができたことも大変嬉しかったです。

いよいよ冬季練習に入ります。厳しい練習を乗り越えて、来年こそまずは近畿大会に出場できるように頑張ります。

（2組　日坂　美咲）

最近思うこと

この一か月、私達が耳にしたニュースと言えば、阿部元首相の国葬問題、明石市泉市長の暴言問題、円安が止まらない、などなど・・・。話題の多くは否定感しか浮かんできませんね。

その話題の善悪を語るつもりはありませんが、人は何故、生産性を感じない話の善悪にこれだけ熱くなることができるのか、その善悪の議論よりも何故そんなことが起きたのかという原因に目を向けることをしないのか、あるいはできないのか。

ひょっとしたら、ここに議会の世界と民意との差が生まれる原因となっているのかもしれませんね。メディア、ニュースは、事実に基づいたものであるのは当たり前。それを客観的に捉えて、冷静に判断するための大切なものであるべきです。

ところが、世の中は、存在を隠した民意を膨大に発信しています。それらのすべてが無責任な意見とは言いません。しかし、「みんながそう思っている」、「みんなが言っている」と言っていたことが、気付けば「みんなは自分をどう思っているんだろう」と、自分の行動が振り回されている・・・。

場面は、切り取り方で自分の都合の良い解釈にもなれば、自分を窮地に追い込む解釈にもなり得る。

「言葉、人の気持ちとはなんと難しいものか」

最近は、自分自身の切り取りが、否定的な部分になっていっているのかとも思います。目の前を大切にしろと訴えているのは、皆さんのためではなく、自分自身に勇気を沸き起こすための気がします。

いろんな先が見えるにつけ、反対にこれからの人たちが自らの可能性に気付いていない、気付こうとしていない姿が、どうしても目に触れてしまって、「このままでいいの？」の強い想いが、皆さんには「怒られている」と感じさせているのでしょうか。

この頃、常に「七十四回生は私で良いのかな？」を問いかける毎日です。自分の未来の為に動くことを始めてくれるならば、「私でなくても」と、本気で考えています。皆さんも、家族も、一度この機会に本気で考え、ご意見を頂ければと思います。

皆さんの「何」が、私の「強い語気」、「怒り」に聞こえ、見えるのかを「逆の」側面から一度考えて見てもらえませんか。

今の困難は「何の為」にあり、「何故」立ち向かう必要があるのか。それに見合うそれぞれの天秤秤に載せる話題を、この機会に是非、ご家庭でも考えて頂けませんか。よろしくお願いします。

一方で、改めて伝えます。

失敗のない成功
誤りのない気付き

はない。私が望むことは、「未知・困難」に向かって皆さんがどう立ち向かい、行動するか。その行動に「若さ」を感じることができることだけです。

「結果」とは、成功・失敗に関わらず、「挑戦してきたことの中に生まれるものであることを、皆さんの人生の先輩が示してくれています。

それを示したもらったから、今の「厄介」が私の中に生まれているのかもしれません。

今月の・・・・の勧め

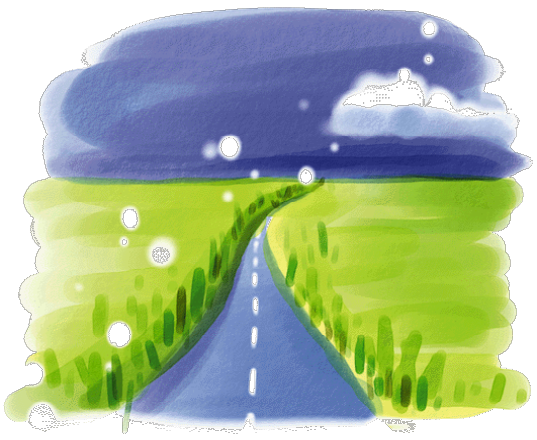
五　月　「無駄」
六　月　「諦めない」
七　月　「捨てる」
一学期末　「チャレンジ」
九　月　「辿る」
十　月　「テレビ」

日曜の朝一番の映画館は、封切り直後の映画でもまるで専用シアターのような空間です。

身近な所で魔法の道具ができたおかげで、皆さんにはその価値を伝えることが困難になりましたが、人間が持つ五感という武器、特に「音・匂い・触感」は、空間を広げ、心を豊かにしてくれます。

洋画、邦画を問わず、そんな豊かな空間や時間を味わってもらいたいものです。

ここ数か月、私の心を癒し、前向きにしてくれた作品のいくつかを紹介します。



トップガン　マーヴェリクス

生徒の皆さんより，保護者の方の方が、圧倒的に強い印象をお持ちでしょう。職業は違えども同世代の人間として、主人公のような味・深みのある生き方ができているのかと思わされました。

ただ、ここ数か月の世界の情勢を見ると、起こり得る可能性がある場面が多数あり、相手を傷つける行為でさえ、無人で精度の高い武器に移行しようとしている場面では、胸を痛めるだけでなく、こんなことが無気質で行われて良いものなのかを考えさせられました。

アメリカ映画らしく、次への希望を持ってエンドロールを迎えることができた映画でした。。

アキラとあきら

映画を観て、いま改めて小説を読み直しています。「宿命」とは何だ。何のためにあるのか。これが、自分にとっての宿命だと言えるような出来事に私達は生涯で出会えるものかと、自問自答しました。

「振り返ったとき後悔があってはならぬ。」そんな勇気をくれる映画でした。

ミニオンズ　フィーバー
バッドガイズ

細かいこと、理屈を忘れて、心の底から泣いたり笑ったり。でも、最近のアニメーションは意外と奥の深さを感じます。

仲間との繋がり、迷い、裏切り、それでも仲間を信じる心。揺れ動くことの大切さも教えてくれます。

川っぺりムコリッタ

牟呼栗多（ムコリッタ）仏教単位では四十八分、このような時間に含まれる細やかな幸せを私達は今の時代に感じることができるだろうかを問われていたのかも。あのお米が炊ける場面の、炊飯器の蓋を開けるまでの時間も四十八分だったかもしれないと、いま改めて思います。

世の中で、その瞬間は無駄に思えることも、振り返ってみれば、いずれも有用なものであることに気付くことができれば、すべての「いま」の大切さを感じることができるのではないでしょうか。

耳をすませば

自分の子供と観ていた頃は，「カントリーロード」が耳に触れていましたが、映画の映像とともに耳についたのは「優しさに包まれたなら」から始まって、途中、映画を鑑賞してしている人で聞こえる音楽が異なり、そしていま一度「翼をください」とともに共通の音として終わる。「夢は変わっていくものなのだなぁ」という、劇中の台詞のごとく、自分の眼に映る映像が変わっていく不思議な感覚でした。

洋画作品に興味がないわけではなく、洋画はいま作成期なのかもしれません。

限られた時間の中で、少しだけ

「我思う　我は何者か
　　我は何を望むか」

を考え、感じる時間を持ってもらえればと思います。

諦めの悪さ

秋祭りの時期。日本全国に住まいを変えている人達も故郷に戻ってくるというのが、西播磨地域では珍しくもない大きな特徴です。

多分に漏れず、初任校の卒業生（すでに齢五十に近付いている連中ですが）が、「灘のけんか祭り」に合わせて帰ってくるのを機に、集まることになりました。勿論地元に残っている者が多数派ではありますが、今回は東京でバスの運転手をしている卒業生が、家族とともに戻ってくることをネタに、十数年ぶりの集合となりました。

企画者の悪戯心で、私が登場することを伏せていたために、姫路駅の再会では大袈裟すぎる反応に、周囲の方の引き具合もなかなかのもので若干恥ずかしさを感じましたが、卒業生が男女問わずそれなりの年の取り具合で、同じ土俵での話ができて楽しいものでした。

なりたくてならせてもらえたこの仕事も、前述の通り自分への言い訳や妥協が増えて、この初任校で最初にお世話になった学年副主任（既に故人となられましたが）の出会って最初の一言「あんた、あと三十八年か。大変やなぁ」の意味をひしひし感じる日々ですが、神様とは意地悪なもので、若くて怖いもの知らずだった頃を思い出させて「本当にそれでいいの？」という、一番触れられたくないところに針をつつかれたような気分になりました。

「もういいか」の言葉と裏腹に、今回の話題の中から「職業」として皆さんに返すことができる何かを伝えたいと思います。

バスドライバーの一日

一日は、タイムカードを押すことでなく呼気検査から始まる。当然、飲酒等だけでなく、食事で口にするもの、口にする時間も、常々気にかけて生活を送らなければならない。検査結果によっては、その日の運行責任を果たすことができず、他の運転手に迷惑をかけてしまうことになります。即座に処分というわけではないですが、しばらくは運転業務に携わらせてもらえないとのことです。

また、最近は運行中に撮影されている感覚を頻繁に感じるそうです。職業としての憧れから撮影されているならまだしも、どうやらお客様対応の不備が少しでも見て取れないか、つまり揚げ足を取るためではないかというケースがほとんどだそうです。

ストレスのかかり具合はとんでもないようですが、自分を無にすること、仕事への責任感・誇り・お客様の安全が日々の頑張りの糧になっているとのことでした。

同業（小学校）の先生

休日でありながら、リモートで研修を受けた後、会には遅れて参加してきました。自分の家庭を抱え、子供さんもみんなと同年代。なかなか心配の種は尽きることがないようですが、やはり年の若い児童を相手に仕事をしているせいか、エネルギッシュで、きらきらというよりギラギラしたものを感じました。

「これから」を大切に育てる環境と、「これまで」を少しでも失わせないように大人の社会に送らねばと思うものの差を感じてしまいました。齢のせいにはしたくありませんが、さて、どうでしょう。そんな新鮮な気持ちを瞬間的には思い出しましたが、定期的にやる気エネルギーの補給が必要だと感じるばかりです。

某金融機関本店営業部

前述の先生同様、家庭の仕事を抱え、加えて子供たちは来年一斉に受験となるそうです。生徒の頃は肝っ玉の据わった子で、大会で何度も同記録の選手と抽選（昔の陸上競技では写真判定などなかった）で、次のラウンドに勝ち上がることもしばしばでした。よく指導（本人はよく怒られたとの弁）した生徒でしたが、今の年代になって若い年齢層の社員と接するにつけ、その頃に指導されていたこと、何を言わんとされていたのか、何に気付いて欲しかったのかと言うことがよく分かるようになったそうです。

実は、四半世紀ぶりくらいの再会でした。卒業生達のこんな言葉の数々が、私を諦めの悪い世界へと誘うのです。

二時間ほどの時間を共有しましたが、着ぐるみの衣装（今の風体）以外は、三十年前の高校生時代にタイムスリップしました。当時と変わっているのは年齢が対等であること。先生と生徒である以上に、対等の大人として、当時を面白おかしく振り返って、同じ空間で時間を過ごすことができました。

不思議でも何でもないのですが、話題になるのは「怒られた」という話。それも、恐ろしいほど忠実な場面描写に基づいて嬉しそうに話してくれました。（中には今ではご容赦な内容も）ただ、それらの話に対しては、自分達の何が悪く、どう行動するべきだったのかが分かる、同じことを、今の自分の立場で部下に対してこう感じる、と、具体的で，前向きな解決策を求めるために会話ができたことを感じることができ、私自身が再び前向きになる、皆さんにとっては迷惑な

「諦めの悪さ」

に繋がりました。

最後にもう一つ伝えたいことは

卒業生曰く、高校時代は

「自分たちはやっている」

と言えるよう、そして、先生に怒られることがないようにという思いに心が支配されていたようですが、歳を取り振り返ってみれば、先生が言っていたことの中には、

「自分たちもやっている」

と言えることを求められていたのかと、そんな想いを自分の部下達に伝えようとしてくれているみたいです。

教職という職業を自分がどう歩むことができたか分かるのは、もう少しだけ先の話ではありますが、卒業生達を通じて、今の高校生に伝えることを学ぶことができるのは、生徒と過ごしてきた時間、共有してきた空間を自慢できることではあると思います。

ただ、今時ではないのでしょうね。改めて、自分の子供さん達の将来に、道を拓く船頭か、道を閉ざしてしまう船頭かを、この機会にじっくり話をして行動を起こしてもらえたらと思います。

気付けば、学校に登校する日数は実質二年ほどであることも理解してもらえればと思います。